一柳満喜子夫人とヴォーリズ氏

子爵の家に生まれた一柳（ひとつやなぎ）満喜子夫人は、ヴォーリズの近江ミッション、すなわち1910年にヴォーリズが興した「建築設計で得た利益をキリスト教の伝道と社会奉仕活動に用いる事業」を、家族の立場から支えることを決意し、1917年にヴォーリズ設計の明治学院礼拝堂(1914年竣工)にて結婚式が盛大に執り行われました。

満喜子夫人も活発な女性で、1920年に清友園幼稚園（ 現在の近江兄弟社学園 ）の教育事業を始めています。ヴォーリズも同年にメンソレータム（現在の近江兄弟社メンターム）の販売も始めて、 近江ミッションは建築設計以外の事業を展開していきました。

1934年（ 昭和９ ）献堂

戦前の建物

1945年5月14日、名古屋市北部の市街地を中心に最大規模の空襲があり、ルーテル復活教会の前身である、この大曽根講義所も焼け落ちました。

教会とは

Churchとは本来、「集会所」という意味を持ちます。人々が神を賛美するために集う場所がChurchなのです。光と歌に満たされたかけがえのない木質の空間が、心にやすらぎを与えてくれます。

主日礼拝　毎日曜日　午前１０時３０分～
こども礼拝　毎日曜日　午前９時４５分～

どなたもご参加いただけます。

日本福音ルーテル復活教会

〒461-0023

名古屋市東区徳川町2303

TEL&FAX (052)935-7716

国登録有形文化財

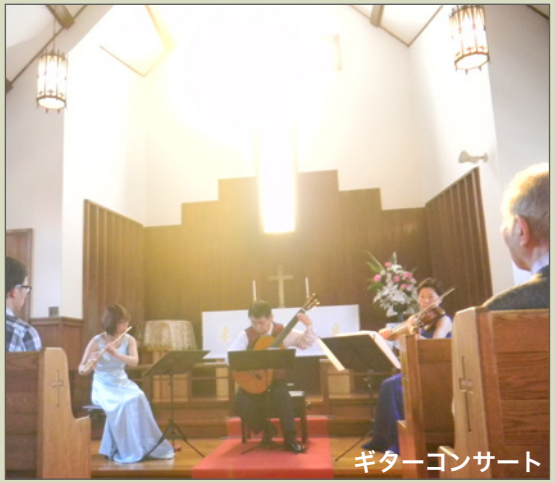
日本福音ルーテル復活教会

建物解説

概　要

竣工：１９５３年（昭和28）4月26日
構造：木造平屋建 一部２階建　塔屋付
屋根：スレート葺
外壁：（上部）モルタル塗（腰）下見板張
設計：ヴォーリズ建築事務所
登録年月日：２０１２年（平成24）8月13日
登 録 基 準 ：造形の規範となっているもの

日本福音ルーテル復活教会
建物のみどころ


ギターコンサート

文化財へのストーリー

1984年にアメリカから着任した戸田裕牧師が「これはひょっとすると 重要な書類かもしれない」と不要品にまぎれた図面や書類を取出し、丁寧にファイリングをして本棚へ保管しました。そして、26年の歳月が経ち「この教会にまつわる資料は・・」と戸田牧師に問いかけたのは、偶然、コンサートに立ち寄り、教会が気になった名古屋市職員。ヴォーリズ建築であることが分かり2012年に晴れて国登録有形文化財となりました。

「秘められた名古屋」より (風媒社刊 2015)

復活教会について語る　戸田 裕 牧師

1. 船底天井
船を逆さまにしたような形。建物の構造部分をそのまま観ることが出来る。これが船の竜骨のように見えることから、教会は「ノアの箱舟」にたとえられる。
（故 戸田裕牧師 談）

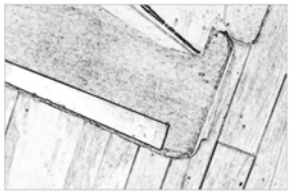
2. シザーズ トラス
「はさみ＝シザーズ」形のトラス。軒の高さが低くても、天井高さを大きくとることができる構造。トラスの中でも美しい形と定評がある。
※ トラス ： 三角形を基本単位として構成する構造。

3. 西向きの聖壇
キリスト教会堂の配置は、東西軸とし、東側に聖壇を置くことが一般的であるが、復活教会では西側に設けられている。その意味は、いろいろと憶測されているが、明らかにはなっていない。

4. 十字架窓のステンドグラス
ヴォーリズが好んで使用した、アンバー色（琥珀のような色あい）のガラスが使用されている。午後のひとときに西からの光が十字架窓へ差し込み、黄金に輝く光景は、ぜひともご覧いただきたいもの。

5. 急こう配の窓台
雨水のキレがよく、乾きが早いため、材が傷みにくい。下部に溝を設け、ひと工夫されていることも、ヴォーリズ建築の特徴である。
窓の「歪みガラス」は、ガラス製作技術が発展する以前のもので、今となっては、手に入りにくい貴重なガラスとなっている。

6. ダブル幅木（雑巾摺り）
通常の幅木に、もう一つ、雑巾摺りのような小さな幅木が設けられている。これは埃がたまりにくく、掃除をしやすくしているもので、こちらもヴォーリズ建築の特徴。
※雑巾摺り ： 和室の板間にある、雑巾がけをする際に壁に雑巾が当たらないように設けられた部分。



7. 緩やかな勾配の階段、Rをつけた踏板
ヴォーリズ建築の特徴は、階段にもよく現れている。使う人のことを第一に考え、登り降りがしやすい（踏み面と蹴上のバランスがよい）寸法となっている。最下部の踏板には、Rが施され、ケガをしないように配慮されている。

8. 心柱（2階）
五重塔や東京スカイツリーなどの塔状建築に採用される構造。構造体を直接観ることができるのは、貴重な機会である。

なごや歴まちサポーター　山田 和正
なごや歴まちびと / 一級建築士　山田 美紀子